

2007 年度事業報告

1. 事業報告全般：

会員機関の組織や体制の見直し、再編成などにより昨今は会員増が期待できない状況下である。いかに魅力ある協会に展開するかが大きな検討課題となっているが、なかなか検討の域を超えていない状況であり年間の諸事業を通して地道な会員拡大を図っているところである。

協会の主要事業として、会誌刊行事業、出版事業、普及研修事業としての講習会、シンポジウム、情報検索能力試験は昨年にも増して充実した事業を推進することができた。

- ・会誌刊行としては、会誌編集委員会の特集テーマ企画および安定した定期発行が達成された。また、特集テーマの他に、協会活動としての委員会レポートや情報検索能力試験などを紹介できた。今後もこのような協会活動の記事を掲載し、会員にとって身近な会誌を目指したい。
- ・出版事業としては、新規出版として情報検索能力試験 2 級対応テキスト「情報検索の知識と技術」を発行でき、既刊の「情報検索の基礎知識」と併せて、情報検索能力試験事業に大きく寄与できた。しかしながら、新規出版物の企画・発行などを検討する常設の出版委員会の体制が充実できず次年度の課題となった。
- ・研修事業としては、研修委員会および西日本委員会の活発な企画・推進により、会員の注目するセミナー、見学会を実施でき、集客数・収益が大幅に向上した。また、両委員会は企画力強化のために合同委員会を 12 月に開催し、相互の情報交換を図った。両委員会の委員構成も充実し、次年度では相乗効果が大きいと期待できるところである。
- ・情報検索能力試験については、今年度も通常の公開試験会場とは別に 4 会場の個別試験会場で実施し受験生の拡大に貢献した。情報検索能力試験の普及が年々拡大できているところである。
- ・第 4 回情報プロフェッショナルシンポジウムは収益が少ないものの、多くの参加者を仰ぐことができた。特に維持会員は今回招待とし好評であった。
- ・研究会としての OUG (4 分科会) , SIG (5 部会) については、活発な分科会、部会が開催された。情報プロフェッショナルシンポジウムでの研究成果の発表やポスター展示などを行った。新規委員増の施策や部会・分科会体制の充実が一部課題となっている。
- ・評議員会に「パテントドキュメンテーションへの取組み」が諮問された。今後も知財関連の情報管理に関心が高まるところである。

2. 2007 年度役員および担当 (○は 2007 年度選出)

理事 (東日本地区)

- | | |
|--------|-----------------------|
| 小山内正明 | 出版委員会 (正)、運営委員 |
| 北島由紀子 | 研修委員会 (正)、運営委員 |
| 木村美実子 | 著作権問題委員会 |
| ○ 荘司雅之 | 会誌編集委員会 |
| 真銅解子 | 副会長、運営委員 |
| ○ 立花 肇 | 会長、運営委員会委員長 |
| ○ 田村紀光 | 専務理事、事務局長、運営委員、事業推進委員 |
| ○ 土谷 久 | 運営委員、OUG、事業推進委員会 (副) |

- 手塚久男 試験実施委員会（副）、広報委員会
- 殿崎正明 複写権問題対策委員会
- 長縄友子 試験実施委員会（正）
- 林 和弘 研修委員会（副）
- 原田智子 出版委員会（副）
- 平井邦造 副会長、運営委員、会員拡大対策委員会（正）
- 藤村和男 SIG
- 松下 茂 事業推進委員会（正）

理事（西日本地区）

- 稲葉洋子 西日本委員会
- 岡 紀子 西日本委員会
- 馬場健次 西日本委員会
- 村山博一 西日本委員会

監事

- 三沢一成
- 西垣幸雄

評議員（東日本地区）

- 小河邦雄 ○長田孝治 ○桐山勉 木本幸子 ○鈴木博道 ○長塚隆
- 時実 象一 ○藤井信栄 松谷貴己 ○山口久道 山口 哲雄 ○吉井孝明

評議員（西日本地区）

- 板橋良則 ○河塚幸子 高橋和子 ○田中邦英 ○田窪直規
- 羽田幸代 増田知子 ○三村智子

3. 会員異動

種別	2006 年度末	入会	退会	増減	2007 年度末
維持会員	69	0	2	-2	67
特別会員	126	1	5	-4	122
普通会員	1,418	125	193	-68	1,350
学生会員	54	8	24	-16	38
合計	1,667	134	224	-90	1,577

4. 会議開催状況

1) 通常総会 -----1 回

第 50 回通常総会および協会賞表彰式 2007 年 5 月 23 日（水）

議題：

1. 2006 年度事業報告および決算報告
2. 2007 年度事業計画案および予算案
3. 2007 年度～2008 年度役員選挙

4. 第32回情報科学技術協会賞表彰

- ・情報業務功労賞 土谷久氏、山口哲雄氏
- ・教育・訓練功労賞 河塚幸子氏、長塚隆氏
- ・研究発表賞 檜村雅章氏
- ・優秀機関賞 特定非営利活動法人 医学中央雑誌刊行会

5. 名誉会員 木内良一氏

6. 永年普通会員 笹森勝之助氏、内田尚子氏、妹尾哲男氏、川島順氏、
竹森利清氏

2) 理事会 ----- 7回

3) 評議員会 ----- 1回 (2008年2月29日(金))

4) 委員会

運営委員会 -----10回 シンポジウム実行委員会 --- 5回

表彰者選考委員会 ---- 1回 認定試験実施委員会 ----- 6回

事業推進委員会 ----- 7回 著作権問題委員会 ---- メーリングリストにより実施

会誌編集委員会 -----12回 複写権問題対策委員会 -----2回

会誌編集小委員会----- 4回 研修委員会 - ----- 5回

西日本委員会 -----6回

研修委員会&西日本委員会合同委員会----- 1回 (2007年12月14日(金) 御殿場)

5 刊行事業

5. 1 会誌刊行事業

2007年度の事業計画の一つに掲げた、安定した発刊(当月1日)はほぼ全号達成された。誤植が散見された号はあったが、編集委員会にて毎号確認し、同様の事態が再発しないような方策について話し合っている。編集委員会としても担当した特集の原稿について、ゲラ段階でチェックできるような体制を整えた。

もう一つの目標である、特集を中心とした編集方針についても、情報担当者の世界で話題になっているトピックをかなり深く掘り下げることができた。また特集内容が図書館分野に偏らないよう配慮することを委員会内で再確認し、情報担当者にとって、必要な知識を得るための最新の情報源として、あるいは必要なときに直ちに参照できるように組織化された編集を遂行することができた。

投稿記事は2007年4月から2008年3月の間に7本掲載した。投稿者がやや固定化しているきらいはあるが、特集では実現しにくい会員間の情報共有・研鑽の場として効果的に機能しているといえるだろう。

また、定期的に掲載している情報検索能力試験報告に加え、「関西特許情報センター振興会創立50周年記念事業 特許検索競技大会開催報告」(2007年10月号)や、「委員会レポート 研修委員会&西日本委員会 合同委員会報告」(2008年3月号)といった、協会内外の動きを伝える記事も掲載した。協会活動の紹介も会誌の重要な役割の一つであり、このような記事も引き続き数多く掲載していきたい。

【特集】

2007年

4月号 図書館への提言

- 5月号 図書館情報学の研究動向と新たな流れ
- 6月号 医薬品安全性情報の収集
- 7月号 図書館業務のアウトソーシング
- 8月号 図書館・情報活動と<評価>
- 9月号 デジタルコンテンツの進展と図書館
- 10月号 知財
- 11月号 国立図書館のパーспекティヴ
- 12月号 コレクションの構築と運営

2008年

- 1月号 シンガポールのいま
- 2月号 分類をみつめなおす
- 3月号 第4回情報プロフェッショナルシンポジウム

【コラム】 Infosta Forum

5. 2 一般刊行事業

今年度の一般刊行事業については、委員会体制の整備ができず、これまでに刊行した出版物の増刷での販売を行ってきた。また、2級受験対策のテキスト『情報検索の知識と技術』を2006年度から進めてきたが、2007年5月に発行することができた。

2級受験対策セミナーのサーチャー講座21での利用冊数を予想して発行したが、さらに利用が広がり、増し刷りとなった。

6. 普及研修事業

6. 1 研修会・セミナー

情報検索能力試験向けセミナーでは、東京、大阪の両地区で情報検索応用能力試験2級および情報検索基礎能力試験の受験対策セミナーを実施し、昨年度に引き続き事業に貢献した。また、九州女子大学、千代田図書館からの依頼セミナーにも応じて、出版事業および情報検索能力試験事業に貢献した。

一般セミナーでは、情報提供サービス業の広い視点から、オープンアクセスの出版社側の取組み、特許サーチのポイント、サーチ業におけるコミュニケーション術ほかを実施した。

見学会では、図書館界で話題となっている100%指定管理者運営の千代田図書館ほかの見学会を実施した。

INFOSTA 事業全般の活性化を目的に、昨年度から始めた新年会とのセット企画では、前年同様に新年会の参加者増や研修委員獲得等の活性化に大きく寄与した。

さらに、普及研修事業の企画力強化を目的に、西日本委員会との合同委員会を実施し、西日本委員会との連携強化を図った。(合同委員会：2007年12月14日(金) 御殿場)

研修一覧

名 称	期 日	会 場	参加者数
電子ジャーナルの作り手から図書館の将来を見る	2007/07/06	東京	29
見学会「資料のデジタルアーカイブを考えるアド・ミュージアム東京」	2007/07/27	東京	12
情報検索基礎能力試験対策セミナー	2007/09/01	東京	44
サーチャー講座 21	2007/09/08-09	東京	59
情報検索基礎能力試験対策セミナー	2007/10/07	九州女子大学	61
見学会「千代田区立千代田図書館」	2007/10/15	東京	20
Infopro のためのコミュニケーション術	2007/10/23	東京	35
情報検索基礎能力試験対策セミナー (千代田図書館員向け)	2007/10/28	東京	23
カナダの図書館と共に歩んだ 45 年と将来の展望	2007/11/17	東京	33
新春セミナー 情報編集力講座	2008/01/18	東京	36
特許情報入門セミナー	2008/01/25	東京	19

6. 2 シンポジウム

2007 年度も（独）科学技術振興機構との共催で INFOPRO2007 を開催し、400 名を超える参加者を得て盛況のうちに実施できた。

特別講演は東京大学の坂村健先生による「イノベーション基盤としてのユビキタス」の演題で行なわれた。

また、トーク&トークとして「明日のインフォプロをめざして」を開催した。

4 名の話題提供、フロアー参加者とのトーク&トークとして盛況であった。

会 期 : 2007 年 10 月 31 日～11 月 1 日

会 場 : 日本科学未来館（お台場）

一般発表 : 26 件

展示コーナー：JST は、Science Portal, JDream II、ジャーナルアーカイブ、J-STAGE を紹介。

INFOSTA は、研究会（OUG, SIG） および委員会活動（会誌編集委員会、研修委員会）のポスター展示を行った。

6. 3 情報検索能力試験

2007 年 11 月 25 日に、7 箇所の公開試験会場と 4 箇所の個別実施会場で実施した。一級の二次試験は、2008 年 2 月 17 日に実施した。

個別実施会場：九州女子大学、別府大学、藤女子大学（札幌）、大阪工業大学

受験申込者数が 1,356 名（前年 1,159 名）であり、前年比 197 名増となった。

試験後は、「合格を祝う会」を東京地区（3 月 7 日）と大阪地区（3 月 8 日）で開催した。

1) 2007 年度「情報検索応用能力試験」実施結果

(カッコ内は 2006 年度実績)

	受験者数	合格者数	合格率	実施日	試験地
2 級	297 名 (224 名)	133 名 (99 名)	44.8% (44.2%)	2007-11-25	東京(1) 東京(2) 名古屋
1 級	14 名 (21 名)	5 名 (7 名)	35.7% (33.3%)	2007-11-25(一次)	大阪 福岡 上田 つくば
				2008-02-17(二次)	東京

2) 2007 年度「情報検索基礎能力試験」実施結果

(カッコ内は 2006 年度実績)

	受験者数	合格者数	合格率	実施日	試験地
基礎	903 名 (811 名)	750 名 (680 名)	83.1% (83.8%)	2007-11-25	東京(1)、東京(2)、名古屋、大阪、福岡、上田、つくば、九州女子大、別府大、大阪工大、藤女子大

7. 調査研究事業

7. 1 受託調査、分類付与

- ・受託調査はなかった。
- ・分類付与 : UDC 分類付与を 1 社実施

7. 2 標準化活動

- ・国内外の標準化の動向に対処するため国内外の動向調査に努めた。
- ・日本工業標準調査会情報部会 ISO/TC46 情報とドキュメンテーション専門委員会に委員を派遣して協力した。
- ・SIST 委員会に委員を派遣した。

7. 3 著作権活動

1) 著作権問題委員会

当委員会の分掌事項と協会における位置づけを検討した上で、今年度は会員に対する教育活動に重点を置くこととした。具体的には、現場の情報担当者が、日頃の業務において著作権にかかわる問題点を解決することができるような研修会の企画を、研修委員会に協力して行った。協会執行部からの著作権に関連する問題の検討の委嘱は、今年度は該当事項がなかった。

2) 複写権問題対策委員会

2007年にも文化庁著作権分科会法制問題小委員会での著作権法改正の動きや学術著作物の複写利用に関する著作権処理機関と利用者の交渉などの動きに機敏に対応してきた。著作権法改正に関しての法制問題小委員会での議論においては、平成19年度の法制問題小委員会による中間まとめへのパブリックコメントを通じて薬事法や障害者福祉目的での権利制限規定を設けることなどを主張した。これに先立ち、8月には「第7回複写権問題検討会 複写権を巡る最近の状況 - 改正著作権法施行を踏まえて」を開催し、会員に法制問題小委員会で議論されている権利制限の強化についての現状を説明した。また権利処理機関に対しての活動としては、株式会社日本著作出版権管理システムによる著作権等管理事業者登録のために公示された約款と使用料規定における問題点を意見書としてまとめて文化庁著作権課に提出した。さらに、政府の「知財推進計画2008」への要望事項も過去からの一貫したINFOSTAとしての主張をまとめて提出した。

8. その他の委員会、事業活動

8.1 広報委員会

協会活動の普及、拡大に向けて取り組んでおり、会誌での研究部会の紹介（OUG, SIG）、メールマガジンの発行などを行った。

さらには、ホームページ改善に向けて作業を開始したが、引き続き次年度へ継続していきたい。検討の場は、事業推進委員会、試験実施委員会、西日本委員会、研修委員会などよりの要望および運営委員会、事務局での起案により、事務局にて実行してきたが、全面的なリニューアルが必要であり、次年度以降、継続検討していきたい。

8.2 西日本委員会

西日本委員会は12名の委員で構成し、主に西日本地区に拠点を置く会員に向けた講習会、見学会、会員交流会などを企画立案し、情報活動の支援サービスを行ってきた。

(1) 委員会の開催（年6回、JST西日本支所 研修・会議室）

普及研修事業や見学会などの企画、実施計画、実施報告・反省を中心に、円滑な事業運営をすべく、活発な意見交換を行った。また研修委員会との合同委員会を開催（12月14日、於：静岡県御殿場市）し、セミナーの企画、開催、報告等について意見交換を行った。

(2) 普及研修事業

(2)-1 講習会 4件

① 特許情報入門セミナー 特許サーチアレルギー解消コース

開催日、場所：2007年6月30日（土）、ザ・パレスサイドホテル

講師：田中邦英氏（株式会社イシダ） 参加者：26名

- ② サーチャー講座 21：情報検索応用能力試験 2 級受験対策セミナー（2 日間コース）
開催日、場所：
東京会場：2007 年 9 月 8 日（土）、9 日（日）、東京八重洲ホール
大阪会場：2007 年 9 月 23 日（日）、24 日（月・振替休日）、大阪産業創造館
講師：岡紀子氏（株式会社住化技術情報センター）、田中邦英氏（株式会社イシダ）
三村智子氏（大日本インキ化学工業株式会社）、池田剛透氏（多摩大学）
参加者：103 名（東京 59 名、大阪 44 名）
- ③ 情報検索基礎能力試験受験対策セミナー（1 日コース）
開催日、場所：2007 年 9 月 1 日（土）、大阪産業創造館
講師：河塚幸子氏（近畿大学） 参加者：23 名
- ④ バイタル・レコード・マネジメント
開催日、場所：2008 年 2 月 22 日（金）、大阪大学中之島センター
講師：石井幸雄氏（富士ゼロックス株式会社） 参加者：14 名

(2)-2 見学会 1 件

国立民族学博物館 2007 年 9 月 21 日（金） 参加者：15 名

(3). 会員交流活動

(3)-1 じょいんと懇話会

西日本地区の情報検索能力試験合格者有志の会「I S フォーラム」と当協会とで、双方の会員および非会員で情報活動に関心の高い人との交流会を実施した。

- ・開催日、場所：2008 年 1 月 11 日（金）、大阪駅前第一ビル凌霜クラブ
- ・話題提供者：高橋晴子氏（大阪樟蔭女子大学学芸学部教授）
- ・テーマ：近代日本の「身装—身体と装い」を情報化する
- ・参加者：30 名

(3)-2 2007 年度情報検索応用能力・基礎能力試験「合格を祝う会」

- ・開催日、場所：2008 年 3 月 8 日（土）、J S T 西日本支所研修・会議室
- ・祝賀先輩サーチャーのお話：山田瑞穂氏（大阪府立中央図書館）、
坂井香織氏（塩野義製薬株式会社）
- ・参加者：2 級 9 名；基礎 7 名（INFOSTA から 8 名）

(3)-3 「情報活動研究会（INFOMATES）」の活動支援

情報活動に興味を抱く人材が相互に研鑽する研究会の活動を支援。ディスカッションを中心とした研究会を 3 つのテーマで 5 回開催。

「組織内での情報部門の存在価値をたかめる」、「リファレンスのためのコミュニケーション術・インタビュー術」、「電子ジャーナルの最新事情：機関レポジトリ・オープンアクセスについて」というテーマで、延べ人数 87 名が参加。

8. 3 表彰者選考委員会

第 32 回「情報科学技術協会賞」各賞の受賞候補選考を行い、次のように推薦した。

- ・情報業務功労賞 山口哲男氏、土谷 久氏
 - ・教育・訓練功労賞 河塚幸子氏、長塚 隆氏
 - ・研究発表賞 樫村雅章氏
 - ・優秀機関賞 特定非営利活動法人 医学中央雑誌刊行会殿
- 今回より「優秀ドクメンテーション機関賞」を「優秀機関賞」に改称した。

8. 4 国際委員会準備室の活動

海外の関連団体との交流を広げる目的で今年度は準備室を設けた。当面、米国 SLA との意見交換を目的として、専門図書館協議会と協力体制を進めた。SLA との交流は今年度は整わなかったが、今後も機会を見ながら検討することとした。

8. 5 会員拡大対策委員会

2006 年度の会員拡大対策委員会答申を受けて、2007 年度の理事会にて検討を行ったが、具体的な実行方案は、整備できなかった。短期で検討可能な整備として、協会の実態把握が先決であり、現状の会員管理体制では会員個人を把握しきれていないので、会員像の実態調査の体制作りから始めることとした。

9 部会関連事業

9. 1 日本オンライン情報検索ユーザー会 (OUG)

各分科会とも年間を通して主査を中心とした活動を行なった。各分科会の活動の詳細は、以下の分科会報告を参照されたい。また、INFOPRO2007 において OUG の PR 活動の一環としてポスター展示を実施した。

ここ数年間、OUG は各分科会の主査を中心とした活動を実施してきた。各分科会が活動して行く上で問題がないか、改めて INFOSTA として各分科会の状況を把握するために各分科会の主査から、現状における問題点等について意見を出してもらった。分科会によって状況が異なるが、問題と考えられる事項としては「事務手続き」、「参加者数の増員」、「OUG 全体の活動」、「OUG 活動の PR」が挙げられた。この中で、「事務手続き」については、OUG 事務局で事務運営マニュアルを作成し対応済みである。その他の事項については、2008 年度に関係委員会等で対応を検討することとした。

(1) 化学分科会 (主査：鈴木理加氏) 開催 10 回

① 勉強会・見学会

- ・4月：勉強会 化学品の製造メーカー・価格に関する情報源
- ・5月：ベンダー訪問 (独) 科学技術振興機構
- ・7月：勉強会 引用情報の検索できるデータベース
- ・9月：勉強会 検索演習
- ・10月：勉強会 化学物質をキーとしてリンクするサイトの比較
- ・11月：勉強会 情報交換会

- ・12月：ベンダー訪問 (社) 化学情報協会
- ・2008年1月：勉強会 情報検索応用能力試験 試験問題を解く
- ・2008年2月：勉強会 学術情報データベースの動向
情報検索応用能力試験 試験問題を解く

2008年3月：勉強会 メタミドホスとジクロロボス

- ② 情報検索応用能力試験 試験問題2級前半の回答例をホームページに公開。

(2) ライフサイエンス分科会 (主査：石井恵子氏)：11回開催 (8月：休会、7月：臨時開催)

① 講演会：10回

- ・医中誌 Web Update (4月)
- ・JAPICDOC と iyakuSearch (5月)
- ・STN ライフサイエンス系ファイルの強化 (6月)
- ・Serials Solutions と RefWorks の概要 (7月)
- ・SLA2007 参加報告と IMICOrder 内での PubMed 検索の紹介 (9月)
- ・ProQuest 社文献画像検索データベース CSA-Illustrata (イラストラタ) の概要 (10月)
- ・JDreamII 関連の最新情報——各種データベース・新機能紹介など (11月)
- ・Dialog Update 2007 (1月)
- ・JST シソーラスの改訂について (2月)
- ・開発系データベースの紹介—「Pharmaprojects の紹介」、「AdisInsight (R&D Insight と Clinical Trial Insight) の紹介」 (3月)

② 検索演習：1回

- ・検索演習 (12月)
 - ・メソトレキサートをリウマチ投与 (最大 25mg まで) および癌へのメソトレキサート大量療法 (HD-MTX 3000mg) でそれぞれ何 mg で副作用の発現率が高くなるか。
 - ・「BERNARD FISHER 先生が乳癌は全身疾患だと唱えたオリジナル論文。1980年ぐらい」英語
 - ・動物の脳より得たガラニン・レセプターの精製に関する外国文献。(日本文献を除くというような処理は不要)。(ガラニン：galanin)
 - ・「ビタミン B6 大量投与によって起こる横紋筋融解症」ただし合剤ではなく B6 単独製剤であること。

(3) インターネット／ビジネス分科会 (主査：渡邊 晃氏)

開催：計 11 回 (8月を除く毎月 1 回 会場：INFOSTA 会議室)

参加者：延べ 40 名 (前年度比-9名)、1 回平均 3.6 名 (2~5 名)

登録者：32 名

(3)-1 研究テーマ (インターネット情報検索を中心に、関連するウェブ情報源を探索した)

●社会・生活関連

- A. お米の種類と食味などがわかる情報源/3月：国内外生産地/量、種類/銘柄、食味/嗜好
- B. 各国の医療統計情報/7月：医師数、看護師数、病床数
- C. 各国の携帯電話の普及状況/6月：加入数、普及率、調査レポート類

- D. ショッピングセンターの状況がわかる情報源/2月)：都道府県出店数、人口/世帯当り…
- E. 世界の燃料用エタノール生産量/5月：統計、主要生産国、原料別、主要用途推移

●特定産業分野

- F. パソコンの最近の出荷台数などに関する情報/12月：国内外メーカーシェア、普及率
- G. 希少金属の用途・生産量に関する情報/11月：用途、生産国、生産量/比率
- H. 各国の漁業生産統計情報/9月：生産国、生産量/推移
- I. 日系コンビニエンス・ストアの海外出店状況/4月：出店数、国内出店状況との比較

●その他

- J. 2007年度情報検索/2級試験問題/1月：ビジネス系オンラインDB、用語、企業調査
- K. 同義語・類義語などの辞書サイト・調べ方情報/10月：同義語・類義語辞書、見つけ方

(3)-2 紹介・交換した有用情報

●新情報源の例

- ・データベース：国立国会図書館/企業・団体リスト情報；レファレンス協同データベース；日本法令索引；国会会議録；帝国議会会議録、Infoplease/Almanacs、CIA/World Factbook、…
- ・統計類ほかリンク集：IT-PLUS/IT関連統計サイト集、名古屋大学大学院国際開発研究科図書館室/ドキュメント・統計・白書情報を入手するリンク集、ミシガン大学図書館資料センター/Statistical Resources on the Web、OECD/Statistics、日医総研/リンク集、WHO/Data and statistics、…
- ・辞書類：The Free Dictionary、OneLook Dictionary、Weblio辞書、Yahoo! Japan/必携類語実用辞典、藤本直編著/類語玉手箱、鴻海電脳倶楽部/シソーラス辞書検索、…
- ・新聞・ニュース：デジタルタイムス(韓国)、新s(あらたにす)(日経・朝日・読売)
- ・サービス・技術ほか：国立国会図書館/テーマ別調べ方案内；電子図書館WARP、都立図書館/ビジネス情報サービス、新技術開発機構/分野別技術ロードマップ2007、…

●エンジン情報の例

- ・機能、技術動向ほか：[新エンジン] Clusty/検索・自動分類；Mooter/分類；reflexa/連想検索；百度；Soople；Wikia Search；GoodSearch、言選Web/専門用語自動抽出、将来の検索エンジン、…

●役立ち情報の例

- ・ソフト・機能、ウェブ検索法ほか：ワード・エクセルのショートカットキー集、JIS慣用色名、ThinkFree Online beta、PDFescape、サーチ・リテラシー(関裕司氏)、ウェブ情報検索法、市民のための著作権講座、5万円ノート「Eee PC」、ポータブルHDD、PLCアダプター、分科会11月アンケート結果、…

(4) 特許分科会 (主査：川田力氏) 開催12回 原則として毎月第2金曜日に開催。

(4)-1 定例分科会

- 4月：調査に関するQ&A(担当幹事；須藤氏、鈴木奈津子氏)
- 5月：アンケートの集計結果と今年度活動方針案など(川田氏)
「サーチャーの役割とは？ 良いサーチャーとは？」(固武氏、高橋氏)
- 6月：課題；「情報検索応用能力試験1級に挑戦 -2006年度問題」(担当幹事；下川氏)
- 7月：講師；筑波大学准教授 藤井敦先生

- タイトル；「特許情報処理システムの研究動向」（担当幹事；川田氏）
- 8月：検索演習 特許 3514388「事務用クリップ」請求項1における特許無効資料調査（担当幹事；綾部氏、鈴木利之氏）
- 9月：「便利ツールの紹介」宍戸氏、小林氏（担当幹事；須藤氏）
- 10月：合宿研修 講演会；鶴見隆先生（東京農工大学）
検索演習（侵害予防調査）（担当幹事；馬場氏、百瀬氏）
- 11月：「侵害予防調査（10月検索演習の続き）」（担当幹事；綾部氏、小林氏）
- 12月：パテントビューロ（古川社長）アイ・ピー・ファイブ 専利 search（永井社長）
（担当幹事；小川氏）
- 1月：インターネット検索の仕組みとキーワードの考え方；関祐司先生；（担当幹事；川田氏）
- 2月：スマートワークス 酒井美里さんの講演会 （担当幹事；関口氏）
- 3月：「検索式の検討演習；テーマ：「SDI 検索式の検討」」（世話人；鈴木奈津子氏、鈴木利之氏）
- (4)-2 合宿研修
より深い勉強会にするため、例年通り、合宿研修を開催し、講演会や長時間の検索課題を行い、検索技術の向上をはかるとともに、会員相互の交流をはかった。
- (4)-3 幹事会
2007年3月と9月に幹事会を開催し、年間計画並びに役割分担などの方向性などの議論を行った。また、9月例会時には土谷理事を向かえ、意見交換を行った。
- (4)-4 交流会
7月度例会時にSIGパテントドキュメンテーション部会の会員を講演会に招待したほか、懇親会にて交流をはかった。

9. 2 S I G

専門部会（Special Interest Group, 略称：SIG）は、特定の分野または専門技術に関心をもつ会員が自由に参加し研鑽を積む場として1984年10月に発足した。現在は、技術ジャーナル部会、パテントドキュメンテーション部会、分類／シソーラス／Indexing 部会、Web サイト研究部会、ターミノロジー部会の5グループがそれぞれ自主的に年間の活動テーマを企画し活動している。2007年度の各グループの活動は以下の通りである。

- (1) 技術ジャーナル部会（会員企業：14社）（コアパーソン：持ち回り）
奇数月の最終金曜日に、合計6回の会議を開催した（幹事は持ち回り）。
会議は、担当幹事が用意した設問に沿って各社がそれぞれの現状を発表し、それに対して質疑応答を行うという形で進めた。2007年度の議題は以下のとおりである。
- ① 技報の発行形態について 一冊子とWEB掲載
 - ② 雑誌の編集発行と著作権についてのトピックス（講演） 一発行サイドから見て
 - ③ 特集テーマ・記事および一般記事の募集・決定方法について
 - ④ 技報の著作権について（講演） 一法律家サイドから見て
 - ⑤ 事・論文の修正について
 - ⑥ 抄録で読者をひきつける工夫、および技報の役割と誌面構成の改善検討について

- (2) パテントドクメンテーション部会/会員 8名 (コアパーソン: 桐山 勉氏) (毎月開催)
- ① R&D 動向分析ツールとしての特許ポートフォリオ分析をコンタクトレンズの特許強度と特許品質の観点から INFOPRO2007 シンポジウムにて発表した。
 - ② 協会のホームページに組み込まれたパテントドクメンテーション部会のホームページで、活動状況を継続公開した。また、INFOPRO2007 シンポジウムでパネル展示に参加した。
 - ③ OUG 特許グループと SIG パテントドクメンテーション部会との交流会；昨年度に初めて企画実行したものを、今年も8月度に行い、藤井先生のご講演を聴いた。
 - ④ Yahoo の e-Group にパテントドクメンテーション部会だけの非公開電子部会を継続開催し、毎月の部会活動に対する活性化補完の手段とした。
 - ⑤ World Patent Information 専門誌のトピックス記事を使い、記事紹介輪講会を行った。輪講会がメンバーの研鑽に役立っている。
 - ⑥ 特別研修会を横須賀地区で11月初旬に開催し、INFOPRO2007 の発表反省と World Patent Information 記事「図面が機械・装置の特許検索の質を高めることができるか」を勉強した。さらに、明治以降の横須賀の歴史的な背景を勉強した。
 - ⑦ 外部知的財産団体への協力；メンバー代表の派遣
関西特許情報センター50周年記念事業企画委員会の特許検索競技大会の企画・運営・評価などに参加した。また、2008年度も継続して独立行政法人研修館と関西特許情報センター振興会の共同主催で行われる特許検索競技大会の企画・運営に参画中。
 - ⑧ メンバー間のトピックス情報交換
EPOPIC2007、IPI-ConfEX2007、PIUG2007などの情報をメンバー間で紹介しあった。
 - ⑨ 欧州特許庁との交流会
特許情報フェアの開催に合わせて、EPO 部長の Dr. Vacek 氏と意見交換

- (3) 分類/シソーラス/Indexing 部会 会員：18名 (コアパーソン: 山崎 久道氏) (毎月開催)
- 当部会は、インデクシング、分類、シソーラス、情報検索の諸問題について、理論および実務の側面から研究している。部会員は、研究者、情報検索実務家、図書館員、データベース製作者、検索等のシステムの関係者、などからなる。研究者も、そのほとんどが、かつて、情報管理・情報検索の実務に従事した経験を有している。ほぼ毎月1度の割合で例会を開いて、凝縮された討論を通じて研究を進めている。

2007年度は、前年度に引き続き、F. W. Lancaster (著) “Indexing & Abstracting in Theory & Practice 第3版” (University of Illinois, Graduate School of Library and Information Science) の会員による輪読をおこなった。

インデクシングの問題は、地味ではあるが、情報専門家のアイデンティティを主張する上で、必須のテーマであると認識しているので、輪読が終了した後、何らかの形で本書の「まとめ」を作ることを考えている。その前準備として、これまで輪読が終了した部分について輪読担当者が、各自担当分について抄録を作成した。本年度の前半は、大部分この作業に費やした。この作業は、最終章までの抄録が完成した段階で、何らかの形でまとめる予定である。今回の作業で、明確になったことは、この分野の日本語の術語が、統一されておらず、また、決まった訳のないものも相当に多い、ということであった。そこで、夏休みに、本書の巻末索引に登場

した用語から適宜選択して、インデクシングについての用語の英訳対照表を作成して、各自の作業の助けとすることにした。その作成には、これまでに刊行された用語辞典、規格などを参考にさせていただいた。このようにして、各自が本書の抄録を分担作成する際の使用語統一を行うこととした。

このようにして作成されたインデクシング分野の用語の英和対訳表の一部は、INFOPRO2007において、ポスターにより発表した。

(4) Web サイト研究部会 会員：10名(コアパーソン 橋田昌明氏) (毎月開催)

(4)-1 図書検索システムについて

- ① 企業内実務システムとして構築した WAMP による「図書検索システム」は、昨年度行った Web サーバ(Apache)、データベースサーバ(MySQL)、スクリプト言語(PHP)などのバージョンアップ後も順調に稼働し、完全な安定期に入っている。
- ② 2007 年度にはシステムを更に拡張すべく、同システムへの「雑誌検索システム」追加を検討し、雑誌データベースの設計に着手した。
- ③ なお、2007 年度に予定していた「図書検索システム」の Linux への移植については、文字コード変換などスクリプト類の修正を行い、Vine Linux への移植を無事に完了した。システムは Linux 上で問題なく稼働し、Windows、Linux などプラットフォーム OS によるシステムの差は殆ど問題にならないことが分かった。

(4)-2 図書室業務への Xoops などの利用可能性の研究

オープンシステムの Web 作成ツール Xoops の研究については、Windows 版 Xoops のインストールまで完了したが、図書館業務への応用等についてはまだ検討は進んでおらず、引き続き 2008 年度の課題とした。

(4)-3 Linux および Windows 上の仮想環境について

- ① Linux については、Vine Linux バージョン 4.2 を利用しており、Linux という OS への理解は深まりつつあるが、Linux を自由に使いこなすという目的は未だ達成したとは言い難い。
- ② また 2007 年度には、WindowsXP 上に「仮想環境」を作成し、その中に Linux および Windows2000 をインストールして仮想環境の利用可能性を検討した。
仮想環境ソフトには商用の VMware Workstation およびオープンソースの VirtualBOX の二種類を試したが、何れのケースでも使用時のストレスはほとんど無く、仮想環境はソフトウェア開発の実験用環境などとして有効に利用できることが分かった。問題点としては、WindowsXP 上に少なくとも 1GB 近くのメモリーが必要など、Windows 単体に比較しメモリー・HDD などのシステムリソースをより多く必要とすることが分かった。

(4)-4 インフォプロ 2007 での紹介展示について

昨年に引き続き、11 月に開催された「インフォプロ 2007 第 4 回情報プロフェッショナルシンポジウム」に情報科学技術協会の活動紹介の一環として当研究会の紹介文を展示した。昨年同様、紹介文は Linux 上の「Open Office.org」(Microsoft Office 互換のオープンソースオフィスソフト)を使って作成したものを展示した。

(4)-5 その他

その他、メンバーが日常的な場面で抱えた諸問題(自宅での無線ネットワーク環境の構築、

HDD 破損による OS の再インストールなどの PC トラブル、Windows と Linux のデュアルブート環境の構築等々)について、相互に意見を出し合って解決することで、PC の基本および OS の起動プロセスなどの理解・知識の向上を図ることが出来た。

また様々な局面で、Perl によるテキスト処理を取り扱うことも多かったため、テキスト処理に関してもより理解を深めることが出来た。

(5) ターミノロジー部会 会員：15 名 (コアパーソン：太田泰弘氏) (隔月開催)

設立の趣旨：情報科学技術の基礎領域に位置づけられるターミノロジーについて、その理論および実際に関する学習および研究をおこなうことを目的として、2004 年 5 月に設立した。

・2007 年度実施内容：

第 18 回 (3 月 30 日) 「ばね」と「スプリング」/部品用語国際標準化の難しさ

(講師：栗原義昭氏)

第 19 回 (6 月 1 日) ①ISO 10241-2 提案の背景と現状 (講師：仲本秀四郎氏)；

②Vocabulary、Terminology、そして Glossary of terms/用語規格の標題に見られる混乱 (講師：太田泰弘氏)

第 20 回 (7 月 13 日) 翻訳者が必要とする言語資源 (講師：井上孝氏)

第 21 回 (9 月 28 日) 各国が制定している翻訳指針の紹介 (講師：井上孝氏、太田泰弘氏)

第 22 回 (11 月 19 日) 外国語教育の視座/言語教育学・応用言語学の立場から

(講師：川口裕司氏)

第 23 回 (2 月 1 日) アメリカにおける翻訳・翻訳教育事情 (講師：小坂貴志氏)

10. 関連団体との交流

1) 会員として加入

- ・(財) 機械振興協会 賛助会員 (継続)
- ・(独) 科学技術振興機構 賛助会員 (継続)

2) 他団体より後援を受けたもの

専門図書館協議会、日本医学図書館協会、日本情報処理開発協会、日本図書館協会

3) 他団体に共催、後援、協賛したもの []内は主催団体名

- ・特許検索競技大会[関西特許情報センター振興会]
- ・「TP&D フォーラム 2007」[TP&D フォーラム実行委員会]
- ・第 20 回専門用語シンポジウム [情報知識学会]
- ・その他 情報メディア学会、アートドキュメンテーション学会、情報活動研究会など